

繪本
豈豆臣敷功記

六編
四

へ遠13
2209
54



門遠13
番2209
卷54

繪本豊臣勲功記六編卷之四

目錄

福嶋斥候活捉可兒女藏

屬稻次戰死

筒井翻攻困齋藤係仗兵

屬島擊齋藤

繪本豊臣勲功記六編卷之四目錄

光秀忘標契諸方自軍敗

属敗北注伸

明智緒士練止光秀戦死

属桐着猛戦

繪本豊臣勲功記六編卷之四



江戸 櫻澤堂山 編輯

福島舟候活捉可見少藏属福次戦死

兩輪固く轉る時ハ車より千里を轉り四蹄健小馳る

駒ハ馬より万程小馳る。豊公世寶の車馬小富り加藤

舟候小款首と得つれ。是ハ小儀少福島が細川

良臣と得るあんど。率の兩輪番つてより轉る小等

然れども福島市松正則ハ可兒少儀と見るとりも。良臣

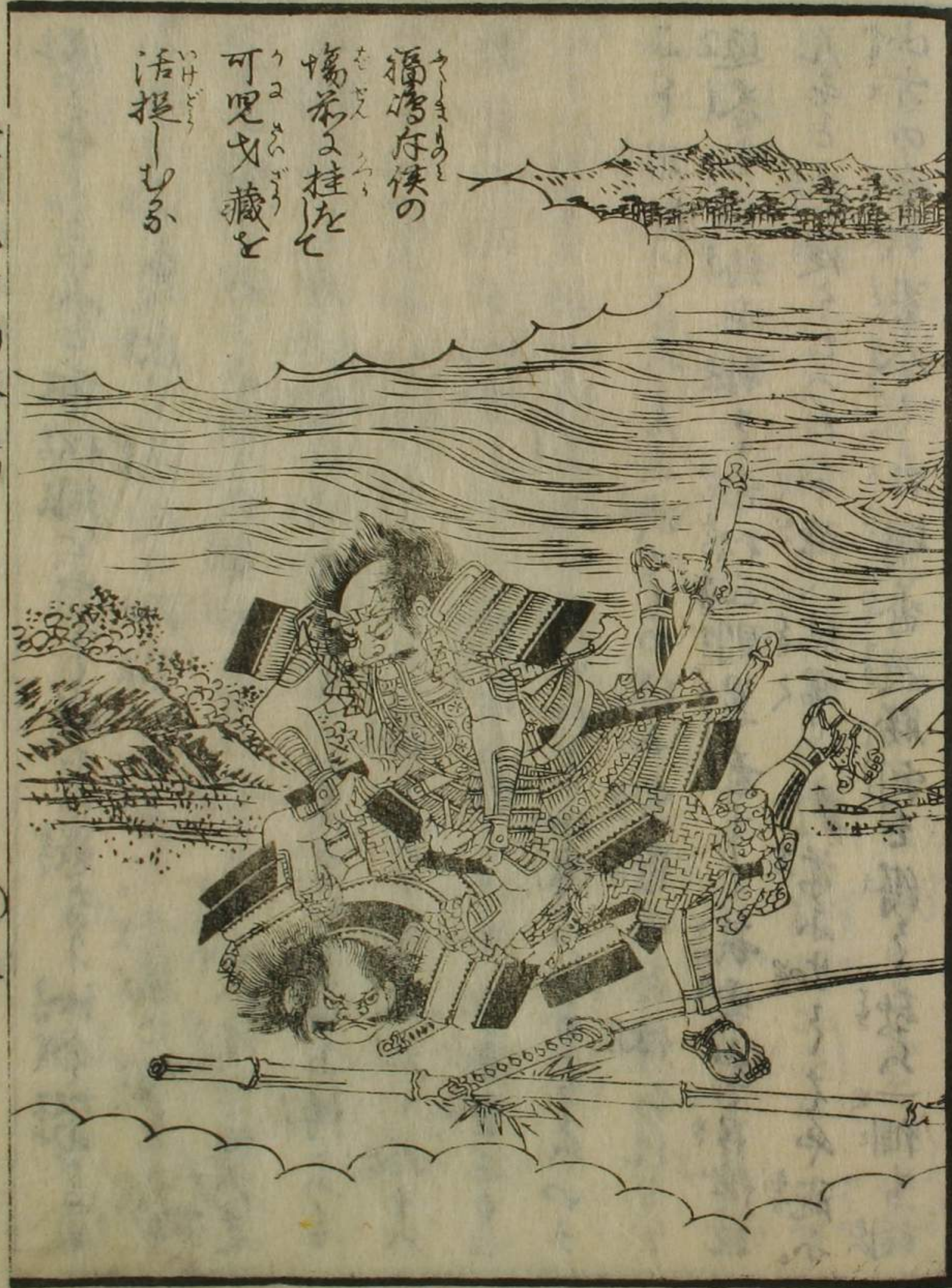
なりと馳進づき。是ハ河津筑前守が老黨ふも。福島市松

正則なり。名字を号味く勝負あれど。珍しく少儀荒示と

笑ひ。それハ明智將軍の幕下小圃少。松田太麻呂塙門

老實可兒女義とりの者あり。主人の戦死と云うよりも。遅
馳不黄泉道の伴せんとありしを。先奈らんと撃て蒐と。
市松が腹を随せし。桂市を傷。跳と出。可兒を隔て太刀
割半鬪し。和田が尻と聆うん。主人正則あへ倅對するの致と。
我らそ其各小符合とまあれど。向ひけるあそ市松も。陪居
あれど。桂小探し。馬を勒し。見警を。強不女義へ身の
長六尺。それ中も餘る丈の漢兵亦市を傷へ。矢ふたつぬ
縷漢あるを。可兒へ侮り。汝も武士の一寸う。決ても討敵と
思ざるもの。を。主従一度もあれやと。朝う笑少を桂市を傷。
徒言へりあううも。小石と。蔬根と。つづれが。穿き。侏儒が力を
試みせん。樓軍と見よやと。巨擘を。抛げ。突を。看てや

義憤怒し。縷漢が。憤き。驕言。首扭斬て。くれんぞと。太刀
抛棄し。樓校。双方。拵らぬ。大力中て。角抵。又。精し
うる。あや。口を。合せ。上帯と。逃小。拵え。と。右腕を。舒せ。か
拍る。弱腰を。叩面。倒ると。劈。面。突。から。あや。ま。れ。不。頭。で。彈
き。止。む。れ。不。頭。撫。た。う。む。さ。う。只。一。搏。と。女。義。が。斥。出。腕。首。紫
と。捕。り。呻。と。一。唱。牽。抛。小。地。响。高。く。布。伏。せ。う。致。及。さん。と
揮。札。を。市。を。衝。強。く。壓。へ。く。動。せ。を。背。を。晒。り。と。這。敵。の
首。と。捉。ら。ぬ。繩。置。け。ぬ。個。ひ。の。を。と。同。の。布。松。吊。小。う。ら。六
召。使。ん。小。活。控。う。下。と。聆。より。登。く。腰。索。繰。出。し。綁。め。ん。と。
ま。る。と。女。義。声。う。け。く。叩。情。を。一。繩。懼。て。見。見。せ。ん。と。女。義。道
小。あ。ら。を。主人の。伴。を。と。覺。悟。せ。り。速。首。撃。て。ま。れ。小。忠。信。を



福清侯の
傷を又桂に
可児文藏と
活捉しむ

豊臣言六段巻之四

遂させんとし、市松綱とやそび。その愚あり、汝今松田く、
 不死を遂るべ、永く逆徒の汚名と抑留く、千歳の嘆を、
 へきふ、怨もあらず、この金言あれ、邪を捨て、正を、
 小隨、羽柴殿、自方ある、美名と、末世に傳ふ、
 の、子孫までも、景華小至らん、其とも亦、悪名と、好、
 隨、意、首と捉、得、せん、と、親、着、られ、可、見、也、義、實、の、
 お、い、去、来、然、る、福、島、殿、の、慈、す、れ、加、恩、ら、れ、玉、と、
 小、忠、勤、つ、ら、ん、小、決、て、も、の、律、小、索、羅、を、召、伴、ら、れ、
 返、答、を、始、終、を、聆、く、市、松、正、則、果、意、す、其、采、を、召、伴、れ、
 ん、と、主、従、ら、つ、れ、本、陣、へ、馳、帰、り、門、前、小、出、く、也、既、小、
 山、方、の、合、戦、事、全、く、吉、晴、秀、政、勝、利、を、得、く、敵、一、個、も、相、

看、え、ざ、れ、心、寧、く、お、り、し、め、せ、と、言、條、ま、る、也、羽、柴、殿、
 難、く、と、大、笑、し、む、い、然、も、あ、く、と、れ、志、を、敵、將、に、さん、い、山、方、
 の、敵、將、松、田、正、則、左、衛、門、乱、砲、の、うち、小、戦、死、つ、ま、り、老、實、
 可、見、也、義、を、り、居、活、捉、拿、す、也、彼、所、免、を、彼、ら、に、召、仕、ら、
 へ、存、ま、る、多、り、と、稟、呈、す、小、大、將、も、其、義、に、呼、ぶ、使、ま、る、と、
 を、奉、り、市、松、悦、喜、し、可、見、を、招、き、至、徳、寺、備、の、約、を、
 仁、忠、の、情、と、更、つ、ら、此、小、お、り、筑、前、守、權、も、山、方、を、
 大、將、に、お、り、され、後、野、左、京、の、子、孫、生、助、雅、樂、助、本、村、集、人、
 於、山、至、水、竹、中、之、他、の、徳、を、傳、へ、倭、を、旗、本、の、中、に、精、擇、出、さ、
 れ、次、第、と、お、り、向、せ、り、翻、く、説、北、方、の、大、將、日、向、守、光、秀、
 へ、山、上、と、い、い、山、下、と、い、い、喊、の、聲、を、聆、き、り、此、とも、動、き、氣、色、

たり。若び稲次万又府と唱倚せいふ光定あれを所け。方倭
 登りたる凱歌へ自方の陣小想遠ある事。這上りて根
 強く通させ。これより威を脱ごうじ。右小左款小息次
 せり。奮戦するこそ簡要なれ。づれの自方の陣小すれ。
 疲止し兵士の見ゆ。光秀さう。馳向ひそれ小代り
 て攻着あん。這首緒方へ傳令せよと。吹然とて指揮す
 小ぞ。稲次光定承所と。馬小抱つれ馳出せ。いふあ
 けん騎つる馬の糸蹄小石小踏さる。倒れんむするを稲次
 驟さ。韃扛操警頭と抱つ。馳くと騎整せ。馬も四蹄
 を踏整し。いさひ投を馳せ。素此稲次万又府へ武藝
 小節す。秀さるのそあ。待歌の道もも披羣あれ。

畢地小遂動せ。飄くこく其疲を風追雲小異あむ。
 天王山の巾小来りて。松田が戦死の相を視て。行り。山下の
 緒戦のそのあり。左右の隊伍へ教乱せ。中隊伍ある
 亦有利こが陣小わい。然とて旗幟のまもも動を。
 樹よりなれ。驗小英雄の進退へ賢きりのと感嘆しつ。
 右備と儼と視る小。款將中川兄弟が。猛戦小た。接陣れ。
 右横左横小敗走さる。看よりそのま。注伸せんと。半途
 せ。返せ。目系自方の勝敗う。始終の相を遠慮する
 小。九分の羽業。利を得られん。我苟も武門の士あり。一遭
 這搦と去とのあ。あれ看。稲次へ危急。臨。生を
 途。一鄙怯さ。と視をれん。詞を朽滅なれ。存。秘あ



豊臣評話 卷之四

稲次万太郎
 菅友松
 吟情を闘に



豊臣評話 卷之四

五

らんり寧亡き業へんま如づくをど心と決一龍の者子
 志らぐの思抄あくび小舟候の詞を解す大將小言條せし
 と重合め々返返一敵が欲一やど山より下と看行る不
 一群の軍馬へ凡六百正冠の旗の奪の羽へ浅野左京が
 隊伍みく是秀吉が命一依山方を投ぐる旗本の勢
 あるが杉山之水冠をうつく進むを着るより稲次先定良
 敵とそと名獨りけ放乱くと倚る雜兵を一捺みく躍除
 隊伍のまよと依と視る小縁く風雅の友とせ一杉山之水冠
 くれが叶禁ら一や杉山氏中國攻よりうち終る其吉信も珍
 ざり一が這期ふ及んと對面する縁後へくざる緯ふあん
 万又舟が首を除收たうくく一と血刀を脇巻服子丁と

擗へ日風吹散秋柴灰と隻聯の一句を吟する水を氷も
 系来這道五長くれ稲次が吟むる勢ふ夜と一筑水
 叩消明智火と流水の句とめて對し一り先定收くち
 笑ひ噫ぢりち一今へたや現世の思残り一最期の
 一太刀清られと又七合をど挑し一が流く自水小縁れん
 死を失ざる勇士ありり。

筒井翻攻因齋藤依伏兵 馬島擊齋藤

評鎮をやさくれ品物の軽重と徹る緯往る當る哉
 筒井家の馬纏社其豊公が重繁と量將するの賢と
 ここと彦小和州郡山の城主筒井入道藤系順慶へ八幡
 る法標嶺陣を設けく在けるが遠濫舟候の渥伸る

方僅こそ時分宜るれ。當方の須崎一万餘騎洞ヶ嶺を
 推し。春日の神號印し。藤系の旗を正冠し進め。
 金の分洞の大馬幟がその下り。大將順慶馬騎安諸隊の
 兵士の合幟あり。梅鉢の花号の口とせ。隊伍を
 中後子領つ。第一番五小田切宮内丸楠春次小泉に
 傍の秀元森縫殿助春重係。二千餘騎あり。赤發せ。
 二番の阪田之助又藤直宗井戸十郎二國秋係。これも
 二千餘騎。備陣に鴻松金。橋原六右衛門あんの歴。
 四千餘騎の精兵あり。主君と守護し。後陣に軍貯
 小為駄を自立し準備し。次第をおく。先秀が旗本勢へ
 正一文地子突投んと推し。後小為駄後内為助が指揮あり。

淀の土堤陰あり。菅茂調其中に埋伏あり。藤系大八郎
 紫田源左衛門一千餘騎あり。夜より這底小鎮へ。待
 在り。冠兵の二千六七及り。行過りたるそのとら。量
 らそ宜多れと暗号の一炮响るを。千餘人一度小吐と
 發り起。二百餘挺の鳥銃と筒頭連ね。霰の像。乱發
 なり。たる洞の中より芋の穂よりも。桶掘く。漆の突頭一様
 喚叫を。擧出せ。おひい。さるる。先陣に田切。藤
 小泉一時小纒奪ち。右横た。橋小前。亂る。海。二
 這。突。高。低。擧。頭。鼓。奔。
 脚。擧。土。堤。下。一。踏。臨。近。ぐ。小。殺。賊。
 一。と。怯。と。怯。大。和。武。者。二。百。餘。人。を。毆。ち。二。陣。の



筒井勢
法螺嶺より
発する斎藤
柴田が伏兵
困めらる

阪田井戸が三千。途中不意の敵あるを。隊伍と固り向
 やと直家國秋指揮しなれど。先隊の崩れ心臆し。賊
 さへ膽袖不台得ど。半ハ進めどその半ハ進み得ざるを井戸
 阪田陰捨陣し。正冠小頭と。退つ捲つ接合ならず。赤藤利
 次柴田勝定と。破らば。後陣の隊伍ハ戦らば。敗走
 せし。懋めや兵輩より捲け明日ハ當身の榮花あるを。
 と聲の極り不呼なり。自告と助け。前後不當り。左右
 小探り猛威と奮ひ。秘術と尽し。柴田亦後進互不台つ
 岡つ烈戦しなれど。敵ハ一万自方ハ千騎。すや筒井ハ
 新發より。赤坂柴田ハ二度目の戦漸く疲る。百餘人
 輾く。撃とす。大八所も。源左將も。あまり烈し。

戦ひ多る。雲時息継在り。筒井多勢ありといふ
 とも。僅の千騎。不意に。行直疾走。通得。退つ進ん
 づ。捲縁しける。飯田直家。井戸國秋。両陰合。突噴。呼と
 柴田勝定。不棚。菟る。源左將も。聞ゆる。猛勇。杖。不。本。し。る
 從長の陰と。石室。經。子。捨。陣。舒。款。の。陰。経。左。右。不。切。去。
 躍入。り。井戸國秋。々。多。股。殺。風。と。棚。け。る。を。佩。插。札。の。精。練
 つけぬ。肌。を。徹。ら。ず。身。と。避。る。其。際。阪。田。が。獨。出。む。を
 陰の。正。尖。ハ。除。れ。と。斤。鎌。を。振。り。か。け。と。右。の。頬。一。寸
 ぐり。裂。れ。る。か。の。れ。と。一。喝。勝。定。が。臆。棚。と。阪。田。が。胸。腹
 亮。り。や。と。看。え。し。が。運。も。も。指。副。の。締。不。喝。令。と。當。り。經
 尖。ハ。脇。へ。反。る。と。勝。定。憤。怒。不。堪。く。せ。や。氣。亂。れ。と。す。

狂勢不奮実ま。然ども勇氣の井戸。坂田一足をらで。期
 りふふ。柴田の肩。増助背。深疾と二口負され。既小免く
 着えし。さうさう。敵者利次。自勢不指揮。當の敵と
 争ふ。旋風の像く。馳来り。柴田と助け。烈戦。源左
 勝つ。もこれ。氣と母。桐を發。火と放せ。面兵も背棄も
 傾士も。活ある。敵へ遁。やま。鑿おせ。呼び起。瞬際
 二陣の兵士。二百餘人と。響。控られ。井戸も。坂田も。たまり
 う。縦横を。別子。敗走。赤坂へ。坂田。勢。破入。柴田
 井戸。隊。伏。小。菟。勝。定。向。より。小。強。く。當。り。敵。と。備。を
 こと。一。突。二。騎。右。方。へ。倒。し。また。方。へ。騎。一。塗。り。棚。首。の
 其。勢。塗。り。梅。り。て。や。千。原。巻。より。嘯。吐。と。折。り。驟。さ。び

太刀と。撃。弱。し。暴。上。震。り。破。り。旋。騎。と。井。戸。が。老。黨。真。勢
 奥。九。筋。薙。刀。振。り。跳。来。り。唯。一。薙。と。撲。抛。り。破。投。調。尖。と
 列。退。り。着。扱。り。真。壁。が。右。腕。綿。纏。測。り。破。墜。し。て。馬
 より。攀。下。首。格。破。る。を。亦。も。敵。兵。四。面。より。銃。尖。並。べて。棚
 菟。る。機。會。よく。柴。田。忠。義。勝。之。源。左。馬。火。車。鬼。の。像。く。近
 来。り。群。進。り。敵。の。後。より。千。刺。万。刺。と。刺。拂。ひ。父。を。救。ふ
 向。方。の。兵。の。小。屯。あり。る。管。陰。へ。霎。時。退。き。休。息。す。
 斯。とも。知。し。ぞ。大。八。郎。の。坂。田。が。隊。伍。へ。刺。り。投。り。當。り。信。小
 胸。腰。背。藏。甲。洞。冑。太。刀。膏。小。愈。し。く。百。原。千。原。と。あ。し。備
 も。怯。す。を。惡。戦。ある。を。これ。が。さ。り。飯。田。勢。も。千。原。の。一。軍。小
 退。り。像。く。後。登。小。後。陣。の。方。へ。奔。菟。る。松。倉。右。近。老。將



柴田勝定
 まつりて
 埋伏崩して
 烈我を



あれども聞ゆる勇士。自方を左右に開けしむ。突撃お揮り
 利次を喰止べしと推發せ。捕系も亦自勢に指揮せし。
 舞くくと大八郎と。百旗の一柱を圍る相合し。道なきと
 單心。是之度目の戦ぬし。敵へ新巻の交代あれども。後
 方の周隊微勢。それきへ過半の戦死し。大八郎小跟從軍
 も。方僅に紛く所くして。おのひく小敵をひきつけ。遠退こ
 極りし。然れども。猛悍の敵。利次是れ。大將順慶が。
 首撃むんば。羅べうく。血をりて。獲の毛。髪と。襟。髪。或は。泥
 のく。袖に塗り。髪を脱。血不粘。髪と肩より。不長く。
 顔一面。小親掛。目小溢。敵のそのあつと。實りの脱つ。密行
 心。備小順慶を。利き。ち。一途なり。茲小筒井家を。双の

逸物。天下の奇士と稱せし。島左近之。丞友行ハ。不意小
 起る。這小闘合。多くも。つ。ぬ。伏兵小。と。嘗てこれ。大
 氣。煩る。然りと。つ。も。本陣。小。事。あつ。と。大將の。傍を
 走。こ。離。と。つ。と。順慶。心安。堵。が。ね。左。近。小。敵。を
 防。ぐ。と。言。を。友。行。せ。も。動。り。ぬ。從。令。故。兵。勝。驕。る
 とも。多。寡。の。細。を。し。小。勢。あり。不。時。勢。振。裸。を。し。浩。る
 時。節。ハ。隊。伍。紊。ま。す。旗。本。の。固。守。減。虚。と。の。あ。つ。か。あ。つ。ぬ
 大將。小。過。失。あ。つ。ん。乃。是。ハ。津。を。渡。去。ま。と。り。小。洞。の。ま。つ。と
 終。ぬ。小。赤。藤。大。八。郎。利。次。一。万。た。つ。と。あり。る。敵。の。陰。又。か
 り。伏。兵。糸。通。穿。嗟。乎。危。あ。ひ。く。大。將。の。膝。下。八。尺。際。間
 と。隔。て。只。一。刺。し。と。跳。蕩。る。伏。兵。友。行。走。り。出。犬。音。が。小



徳左衛門
 為孫大八郎が
 乱投と刃破る

徳左衛門大八郎

一四



春日大明神

徳左衛門大八郎

一五

噫怪しや大守の所業と怒れども亦く督軍變て身目と
 欺き軍騎進む用ありげあるも赤藤大八郎と視るに
 曹月う。這徳本小島左近があらんと云。知て窺ふ鉄骨
 さし通をまじきぞ那地動く如と。突を騰て捉けし。白
 刑の棟の小薙刀是を先日厄崎にて羽柴殿より賜りし
 と。洞光活く聞しと奔雷の像く斬り蒐る。其猛勢
 小や眩しけん。予得小極き大八郎も二間をり。退去
 呀憾念や斯露と云。張いりせせん。察を如く大八郎利
 活あり。見泰の燈承捕と左も小捉し。截首と左進目的
 と。抛着る。承捉たるは友行の。薙口の銀符もて。撲地と
 大地へ歩落さば。虚行と云。走捉り斬結し。哀れや赤藤利次

へ百戦小を身も倦疲也。瘦さく數ヶ不く負され。心へ
 愈益小搦れども妙術奇獲の友行も及ぶ。予久の薙刀の
 獲てと電光石火。勝りて。大八郎が右の腕と臂樞うけし
 砍割し。これく太刀を揚げし。迷くも喉を撲搦し
 拵つ。洞尖小瀧を。積る血と茶後なく。首へ大地小籠
 哩と墮し。惜む。大八郎利次怯義勇と持たし。遂
 至のくまゝと云。行奉積りて二十歳。嘆息するもの
 多し。織小這時を陣を。左近が固守綴り。廿八順慶殆
 危少りたり。既も齋藤戦死。廿九左近友行采幣檢括
 進めやまらむと。一方の總勢と進起し。入道守緩し。く
 淀川の岸邊近く。敵を追蒐。強弱不拵。小息を。次某

烈しく逐撃せしむ。敵首六百餘級を得し。秀吉の
本陣へ餓られける。荒茶守も深慮あねば。厚く恩賞せ
られし。

光秀忘採奥諸方自軍敗属敗北淫伸

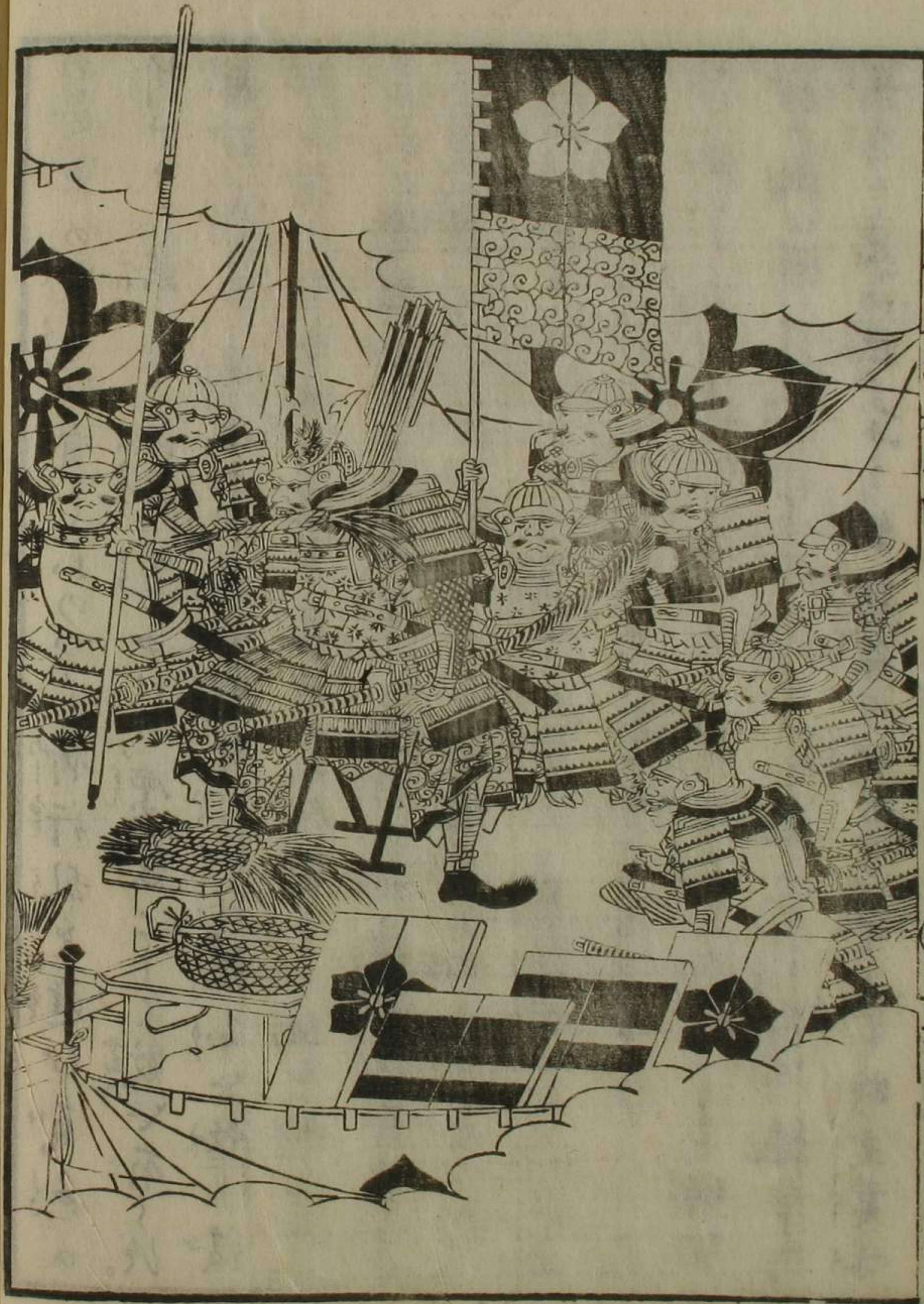
羽柴勢と斥く南方の軍兵と號し。明智勢を斥く
北方の軍兵と稱す。是山崎の地理小擾れり。其方と
季小准ら。南へ仕り。北へ死あり。増々や北軍へ
の別り。其とのを敗北の熟字と成す。是天然の理あるべき
小何ぞ勝者の私せんや。然る斯きを明智勢の陣に敗れ
ゆる。先陣森藤内藤助伊豆守利光。利光の明智光親
奥田景弘。各采幣亦揮く。駛車と懸す。戦ひこれをも。横方

の自軍の敗走と看す。かのづう脚行乱進む。氣色の
折けり。然とも隊將勇たれ。凛然として敗と取らば。
盤石隊とぞ保持する。這晌明智日向守。旗本を整へ。後
陣小在り。自方の弱き方へ。推發し。此を助けんと。
床机小彎腰在り。搦會も洛中の神祇寺院醫家。茶
人連飲師。工高農丈等。小むるを施財地子。後之恩あり。
當時將軍の祇司と。且等閑ふも。軍慰訪の呈贈。酒
佳者や。饋饌。饑饉。夜食あり。小款と。それがあるふも。爲
丸二條下る街。瀨瀨三た。饅頭高小。店り。明智
家の稱口師と。光秀一町の地を賜ふ。這三た。縁と。
光秀か意し。稱ふ。餒精糖の味せ。中ふも。特更賞味



光秀粽と
食ふ戰場
の殺聲よ
刺せらる

豊臣記六編卷之四



豊臣記六編卷之四

十六

道喜探へ
笹定色む
あり川邊道
喜ハ河野の
所置す
其の回数
あり桓武
天皇の時
宗良より
神供し
本より

ゼー道喜探とつゝ姿入り。此日の戦は既として彼探と
りて敵とす。時子光秀慰訪の倫輩小対面せられ種々
連ぐり清本盤ふ。單ゆる笹の最蒼々と生じ其茹る
さく雞得ゆ依。光秀平日好物あれば遠登く取く喫
せんまを胸際迫く聞ゆる。喊の聲のあやとやらん自方
敗北せしやう中。心魂と貫き聆えられぬ。我と云はれ
道喜探の單付拵らぐ喫しう。慰訪の人々これと看て
もいふに非と吹笑しう。登くも掌心に小當送小面と面
密小觀合將軍職とる。光秀も斯をうり怯と一ふや。
將軍の任とる人の食料と茶共小食するありや。とる得張と
降しう。驗小寝食と忘るも宜らう。ね。這時發せし喊の聲ハ

雙臂と頼し。自方の大將令敗と一時あるものと。探の
皮もあど脱とる。果しく天王山と松田太席左邊が戦死し。
山の下の敵將中川右隊依を裂し。敗り左隊伍に池田が
つめ小津田村上隊も敗と取。彼世に箇不の敗勢。親音
山をも動し。河をも振ひ。天地も今や顛倒し。渾泥未列
の代中もやあんと。尋常の輩ハ愈都々。膝落繩も流る。降
る。最東西懼所へう。これがあら小迫衛の鳥合勢ハ胸下よ
敵の退する意地し。光秀とすや敵の如く小をひるし。
勝負の虚實も圓教せ。右佐左性小落行を看し。心魂穢
石の獲兵強すも。とる怯合く。逃準備まも。稍多し。此
期小遠で智とゆ。怒と非勇とゆ。怖れを極く。怒と家机

不疾一日向守。黄金の采幣腰に收めて。兜引緘起奉り。
 馬に跨り、漆槍俤々。呼絶しき軍相よ。鄙怯の自方へ橋
 恃不知らむ。我旗本の一隊とゆへく。羽柴が隊伍と斬崩し
 猿狩者面不驚吹せん。這胸より。各續けと韃槍探跡出
 さんとまゝとそろう。浪伸そそと呼たろく。之技が後者指首之
 屏布馳来り。主人兄弟もや既。戦死ありと告ると。駭驚
 く際もなく。稲次が。籠の駛率息とたより。不驚来り。山方
 被れく。松田政近戦死つら。まろりく。たや將軍の河運の
 期あり。と主人稲次万屏も。敵と未ゆ。刺番へんと。實
 傳てりあり。と。駭耳が。根不証。擊鼓ある。公法標の吉喊
 の声。山方や河方や。遠近不。のす。さ。ま。ま。く。响。満。り。て。危。つ。や

敗軍光秀の馬着く。嶺。菟と。お。ろ。く。了。得。し。智。勇。の。日
 向守も。這期と。決し。戦。少。き。や。羅。び。や。心。の。操。る。と。そ。ろ。を
 知らむ。惘然と。し。鞞。果。南。と。睨。く。ま。り。ける。

明智緒士練止光秀戦死 馬相若猛戦

朽臆や。留名百代。其業辱と。持。ま。る。と。揚。雄。ま。る。王。莽。が
 大吏と。辱め。る。方。僅。明。智。か。臣。と。や。よ。く。勇。と。智。又。富
 ち。が。く。運。徒。の。汚。名。と。い。う。め。せん。然。る。と。不。光。秀。は。押。し。も。羽。柴
 か。屏。軍。不。自。戦。し。浩。る。軍。配。あり。る。事。と。今。更。勝。不。羞。そ。の
 こと。お。ま。ろ。く。ひ。中。く。天。不。作。む。我。得。り。心。と。利。之。が。強。く。付。る。
 運。命。ら。不。期。ま。す。と。き。と。怯。先。後。其。の。ま。る。と。菟。本。妻。本
 長。閑。参。へ。在。る。と。完。隣。の。敗。不。似。り。惜。し。や。掌。中。の。天下。と

のろく筑前守に属せん。天あるか命あるか。今い未
 傳ふるを懐かむ。戦死の介他思ふ。一怒高く嘆息
 して馬騎如さんとあしける。比田常刀馬着、塞り、鞞ら
 推戻し、をそれるが所、経多、此大將の所為を、未
 代までの恥辱あり。敵い多、勝り、自方の微勢あり
 のろく、諸將多く戦死し、領軍乱れ、鎮守をされ、再び
 合戦する、小御あり、只勝龍寺山傍の東北廿丁の内在へ所退去あり。夜小
 伝、板本へ所入、破地を、今日の死を雪ぐせ
 玉を、難き事、と、練あけ、附進七、作、場門
 瀧尾、兵、場、渡、の、袖、も、腹、巻、も、破、れ、太、刀、折、捨、曲、り、金、標
 鉸、も、お、ろ、ろ、れ、朱、も、あ、り、地、車、り、方、僅、光、秀、が、戦、死、と、比

田品共小練止まると。光秀更小練くらむ。量、悟らんや將
 身へ死まむ。時小死るされ。死小務る恥あり。今日
 只今天我と亡きの時、至り。汝、決し、制止せむ。今、
 軍刀を、放ま、と、焦燥する、不、圓、く、止、め、釋、小、時、境
 一隊の暴武者、正一文字、小、強、来る。危や、敵、兵、急、ある、強
 合せんと、君、一、夜、身、痛、整、し、着、や、れ、敵、い、あ、る、と
 筒井、執、と、血、戦、ま、り、柴、田、父、子、横、斜、途、小、馳、ま、り、深
 九、場、つ、た、腕、を、綿、纏、と、言、奴、と、小、繫、着、その、を、數、々、不
 深、痕、と、着、り、子、息、忠、義、も、父、子、若、毛、眉、間、肩、頭、胸、背
 胸、も、口、み、け、所、陰、痕、太、刀、痕、親、子、一、様、最、烈、大、和
 勢、と、戦、ひ、小、鮮、血、い、さ、ま、り、暴、雨、を、う、け、る、紫、山、子、の

義の偏る像く。小幡城も緋系と。倉赤系と。色変り。
 着る月も痛き不相少く。光秀が馬系と。身と踏踏。こまく
 系者大八郎と。利之が指揮ふより。筒井が馳来る。才途不
 伏兵つる身つり。待ば遠らば。順慶法師。翻攻せんと。大將の
 所陣と目的。馳進る。魁隊と。生と。喰止。喰止。一旦勝利
 して。多勢の敵を。是と。遠支止め。くく
 深痕を。大八郎中も。良款を。撃破り。くくも
 是又小勢の功。一万余騎。捕縛られ。今。後。た。や
 順慶が。戦死つる。利次。戦死する。との
 かく。筒井が。一万余。地。小。換。換。を。け。け。け。け。主君
 小。落。せ。所。蹟。の。俺。們。父。子。を。後。繼。止。り。て。踏。ぎ

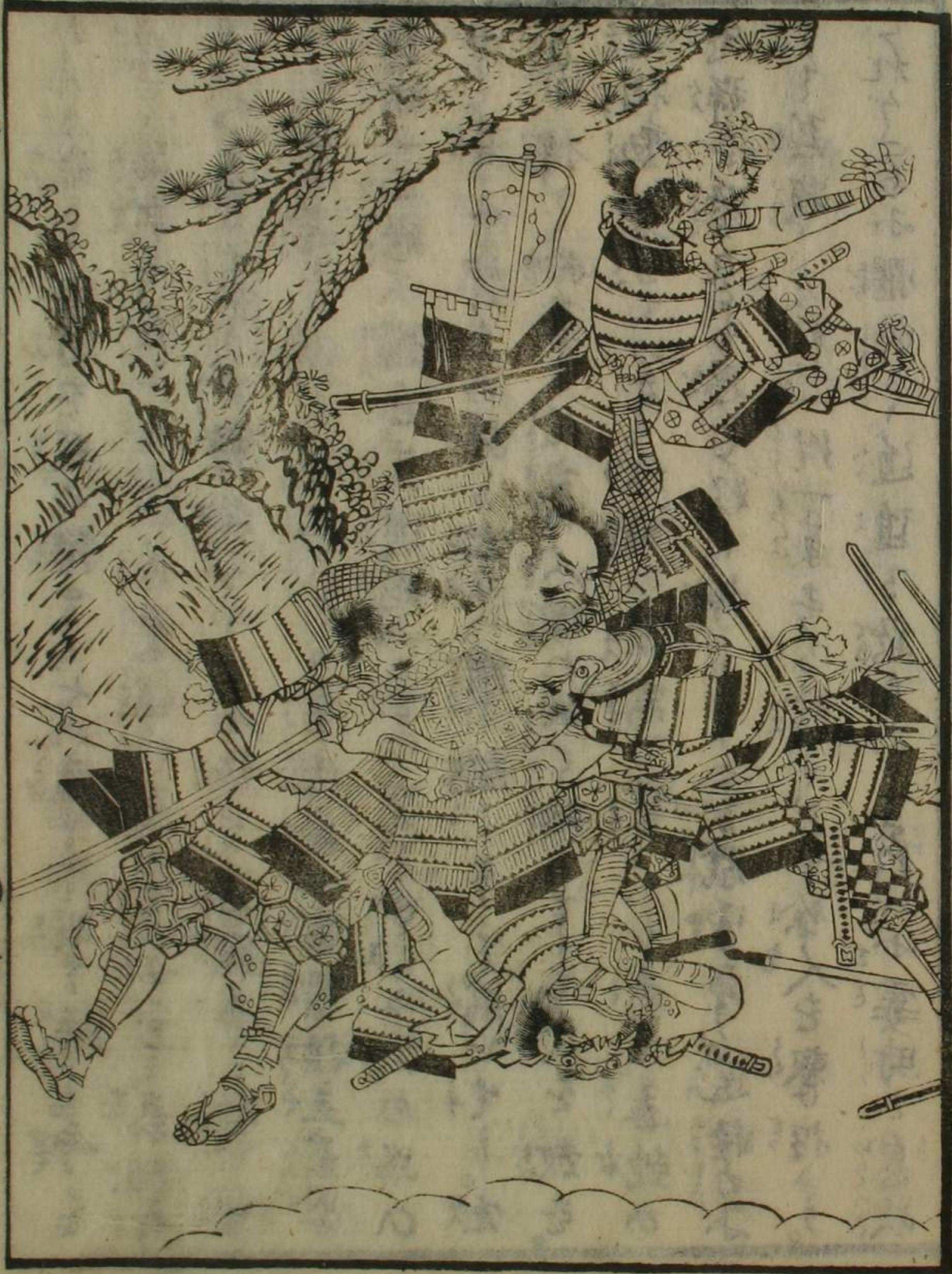
と。ま。ん。ま。の。を。言。出。つ。ま。ん。と。和。を。忍。ん。と。馳。疾。の。
 時。後。ま。あ。い。稱。と。と。敵。不。等。し。息。と。繼。進。と。光。秀
 儼。と。視。く。大。張。柴。田。父。子。が。忘。忌。惜。し。や。深。痕。を。負。せ。り。
 其。練。言。も。理。た。ぐ。く。自。も。他。も。今。日。期。り。斯。を。り。や。べ。退。く
 とも。天命。通。く。と。と。あ。り。汝。儼。と。借。く。戦。死。ま。る。と。是。
 君。臣。の。真。情。を。り。と。聆。り。勝。定。數。子。行。の。洞。々。洞。々。と。血。を
 瀧。ぎ。斯。の。朽。憾。所。終。る。下。臣。深。痕。を。負。り。た。ぐ。く。只。願。
 運。綱。を。重。さん。と。大。八。郎。が。苦。戦。を。看。守。馳。疾。り。る。功。も
 かく。都。を。鄙。怯。の。所。為。と。あ。り。と。憾。念。警。し。る。方。も。あ。り。
 誠。小。名。將。少。く。あ。り。と。清。賢。の。火。急。子。を。り。と。清。賢。の
 少。も。暗。昧。ら。せ。と。し。取。捨。く。惑。を。せ。と。し。返。る。く。も。清。賢

受あらんべ。下臣が忠義も水の漚。命の惜しあわねど
 這上りも猶河深慮と。統らされ玉たるべし。帰くへ一目の
 恥を捨られ大名の後をおりえらむを。落んと命せと奉
 所ら。黄泉の歡喜このくを。捨く服と用て。親子が最
 期つららん。と殉及むべし。と主君の所給途。着獲さる
 不忠の柴田か。ぬまき時。の憾念さ。と齒を切鳴く。痛
 獲も忘と。切ある。誦ふ光秀も。教行の涙。咽郊。無者と
 とい某方と。つひ新参あ。至忠孝義感。む。猶除あり。
 活ら忠士。練言を。容さる。亦道。か。然。汝。偽。が。言。不
 隨ひ。死を止り。この。這。場。と。通。ね。ん。安。心。せ。と。馬。行。轉。せ。ん。
 柴田親子の最嬉し。けふ。鼻。も。ち。み。吁。切。恭。と。生。茶。の。望。

満足せり。これも快く。所供ありて。勝龍寺のう。と。落。せ。せ
 五先俺們。一。防。し。愉快。死。と。遂。り。あ。さん。所。辞。別。そ。の。と
 勝定勝之。歎。け。向。く。信。隊。を。比。田。溝。尾。進。士。假。へ。日。向
 守を。与。獲。し。ら。も。勝。竜。寺。の。方。へ。落。行。と。新。着。あ。る。す。て。同
 送中。百。之。四。十。騎。の。殘。兵。小。腰。兵。糧。を。釋。不。喫。せ。せ。溜。止
 一。款。を。ま。つ。然。ら。ず。羽。柴。の。隊。將。中。川。池。田。丹。羽。等。山。づ。つ。れ。る
 勝利を得。と。つ。も。教。刺。の。合。戦。小。太。疲。且。令。く。敗。り。深
 さ。り。と。秀。吉。察。し。旗。本。より。真。田。隆。須。賀。藤。堂。青。好。等
 回。多。ん。と。指。察。させ。追。撃。せ。し。の。指。揮。小。隨。ひ。各。々。舊。地
 小。馳。着。り。突。殺。せ。し。と。別。く。う。亦。北。方。み。明。智。十。舟。左
 湯。門。村。上。和。泉。守。奥。田。宮。内。飯。坊。飛。騾。守。山。本。對。馬。入。道。



大相若く狂勇
 明智勢の中隊依
 と激戦にふる



かんを敗る。自方を脱め懸す。七八適すを捉え返す。命を
 捨て防戦す。孫小黒田の義堂。播磨拳の赤士。秦相若
 とりける勇士あり。が脅怖も十人小超る。合戦毎に敵と撃
 こす。分小過る。懐く。長九尺ある唐国扇の當標推立。黒田が
 隊奴の心懸小願也。先道周つる身つらんと。甲乙の敵の強ひ
 あり。隻ふあがり小握る太刀。捲く。控く。こす。風と生す。先
 小搏く。抱着る。佐力の人備へ。細く。綸く。こす。て火を放す。
 這相動と驚てつる。悪鵬の猛禽と穿つるも着え。春蛇の
 兎群を撃つるも思われ。怖く。うり。多る。驍勇あり。這怪力小
 しく。烈殺。一たび。一往。一來。去る。際。三十餘人を撃つ。返り。
 これが。あ。小。懼。怖。く。近。進。了。敵。も。あ。ら。ざ。れ。ば。小。要。時。と。息。次

在る。と。と。藤田傳義。同傳。兵。備。突。と。弛。進。く。左。右。小。力。擲
 着。素。頭。擲。く。二。振。三。振。巴。の。字。の。像。く。旋。る。と。着。え。り
 ける。が。兩。士。が。首。波。扭。り。あ。ら。や。怖。き。と。奥。田。市。取。
 溝。尾。又。右。邊。の。若。後。より。捨。り。怒。喝。一。突。蕩。る。成。巨。擘
 と。撒。け。く。追。旋。し。其。身。二。箇。不。傷。と。負。れ。と。も。遂。に
 兩。士。が。捨。折。拵。る。左。右。一。跑。倒。し。踏。殺。し。く。這。播。小。黒。田
 勢。進。退。振。り。合。戦。小。自。在。派。得。る。れ。驍。起。追。つ。捲。り。つ
 故。谷。派。撃。と。凡。算。と。知。る。と。凡。備。亦。山。方。の。堀。尾。茂。助
 堀。久。右。將。の。あ。將。へ。脱。小。松。田。と。擧。擧。く。故。谷。派。に。追
 下。し。山。腹。より。下。派。看。御。せ。り。山。下。の。合。戦。大。小。乱。れ。て。自。方
 大。才。勝。利。と。得。る。が。中。備。有。る。赤。藤。勢。の。も。猛。勇。小。く

丹羽勢免く看えけるゆゑ。内義助が隊伍の後と。擊崩
さんと諸兵小指揮なり。統行十分不便宜張得たり快
撃發せの勢の下。六百除挺とるゝ之。散ふとて乱發
—と

繪本豊臣勳功記六編卷之四終

